

夏期講習だより

第5号

文責 池谷 祐輔（赤穂東小学校）

7月2日（火） 第4回 夏期講習事前読み合わせ会報告

第4回読み合わせ 令和6年7月2日（火）

読み合わせ範囲 「西田哲学選集」第一巻 「西田幾多郎による西田哲学入門」

第二部「善の研究」

第二編「実在」第五章「真実在の根本的方式」

司会者： 寺平 千明 先生（宮田小学校） レポーター： 棚橋 優生 先生（中川西小学校）

〈 棚橋 優生 先生のレポートから 〉

真実在の根本的方式とは

○「統一」と「矛盾」について

真実在の根本的方式は、「統一」と「矛盾」であると考えた。

物事が実在するためには、ひとつの物事では成り立たないということが「矛盾」

しかし、「矛盾」が成り立つためには、矛盾の根底に「統一」する何かがある。

「統一」と「矛盾」は、真反対。

○「統一」と「矛盾」を私たちの生活に落とし込んでみると・・・

純粋経験が「没頭」や「夢中」だとしたら、矛盾は「散漫」という言葉が当てはまる。

「没頭したな。」「散漫だったな。」と覚めるのは、「時」という時間の流れや時間の速さが形成している。

「統一」と「矛盾」は、真反対にあるものと考えていたが、根底は同じもので繋がっており、この「統一」がなければ、矛盾や対立といった広がりは生まれてこないのではないかと考えた。

○日々の生活を振り返って

同じ土台がないと、上手くいかない。

前回の唐澤先生のお話にあった「生きている学級には必ずトラブルがある」というお言葉があった。

「統一（土台）」という視点から考えると、学級には「根底の統一」が大切だと考えた。

「大きな声であいさつをしましょう。」や「黙って話を聞きましょう。」の『上辺だけの統一』ではなく、「なぜあいさつはするのか。あいさつは、どんなふうになければいけないのか。」や「なぜ、人の話を聞くのか。今は話してもいい時間なのか。」等の「根底の統一」が大切だということ。

人間は、十人十色だが、もっとも根底の部分ではどこかで繋がっている。その根底の部分をどのように見つけていくか、どうすりあわせていくかが人間関係ではないかと考えた。

補足：唐澤正吉先生より

骨格を支える法則がある

〈 グループ討議から 〉

○矛盾と統一について

こどもの根本にあるものを教師がつかむ

○実在は対立するもの

授業でも対立の場面をつくる大切さがあるのではないか

数学の本質なものにつながる場面が多い

○1本の木を学級と考えた

「ルール」が統一されるといいが、矛盾もうまれる

学級には、いろいろな色があり、鮮やかや明るさが違うが、いろいろなものが混ざり合いながらみんなでいい

色をつくっていく。

○統一と矛盾について

ルールをつくる（統一）とやぶる（矛盾）

統一をつくると矛盾がうまれる

学年で統一すると学級のいい色がでてこない

枝と葉があっても木がないと意味がない

○クラスのルールが統一されないと不安になる

絵の具をパレットに「赤」だけを並べていてもつまらない

15色ならべるから「赤」が輝く

○何もないクラスはおもしろくない

「統一」があるから「矛盾」がうまれる

学級だけではなく、社会全体にも同じことがいえる

〈 唐澤 正吉先生から 〉

○前回の青木はるか先生のレポートに続き、棚橋先生のレポートもすばらしいものだと感じる。

○「統一的あるもの」・・・言語化できないものだけど、統一あるもの（あいまいなものではない）

例：弓矢 外（西洋的な視点）から見れば、弓矢は見える

実際にその立場になって、弓を射る瞬間（活動・動き）というのは、目に見えないし、どのように表現するのか。「統一的あるもの」には、意思が必要

○「時」は、「今現在」

西田の根本的な概念は、「今ここである」→棚橋先生は、ここに目をつけたことが素晴らしい

○学級でのルール（根底の統一）

「ルール」は言葉で表せる。「統一」は、言葉では表せない。

学級は、士気が高い集団にしたい。学級のつながりを高めるなら、心の働きかけが大切。

学級での「ルール」は大切だが、どのようにつくっていくか大切。

「今ここに」という意識が大切。「今ここにいる場」が大切。

西田哲学では、スタートがゴール。

○ピンチはチャンス

「うまくいっているな」と思う瞬間はピンチ

学級経営をする極意は、重箱の隅を楊枝でつついてきれいにするのではなく、杓子ですくうぐらいにしておく。そうでないと子どもたちは苦しくなるし、教師も苦しくなる。子どもの目の輝きは、とても大切。

100パーセントの統一はない。100パーセント徹底することが本当に大切なのか。

西田は、100パーセントの統一はないし、100パーセントの不統一もない。

自分のやり方が間違っているなと思ったら、自分の世界を変えることができる。

「このやろう」と思って指導したら絶対に上手くいかない。しかし、子どもの話に向き合うと上手くいくケースが多いという経験がある。

ピンチはチャンスを読んでもらうと話したいことが伝わる。

教師として実在させてもらってここにいるという意識をもつことが大切。大地のような教師になりたい。

○教職は、激務。決断してやることの大切さをかんじてほしい。

学級の中で、「矛盾」と「統一」は、動いている。「石」は統一力なし・「植物」は統一力がある

生きている学級には、トラブルがある

→まわりの先生へ報告したり、協力したりしていくことが大切。

○自分を無一物と思うことで、たくさんのことを吸収することができる。子どもとともに歩む教育が好き。